

令和4年度 学力向上プラン

学校名 中央区立久松小学校

学校の教育目標

「強く」「正しく」「豊かに」

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・強い意志と向上心をもち、未来を切り開いていく「自己実現能力」
- ・ものごとを正しく判断し主体的に思考を深め創造する「問題発見・解決能力」
- ・互いに尊重し思いやる「人間関係形成能力」

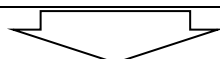
令和3年度「学習力サポートテスト」や令和3年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<p>様々な図書に親しみ読書する習慣を身に付けさせることが課題である。物語や文学作品を好む児童が多い。高学年では、表やグラフなどの資料を使って、自分の考えを効果的に伝える文章を書けるようになってきた。だが、自分の思いを順序に気を付けて話したり書いたりすることには課題がある。低学年では、促音・拗音・助詞の使い方に課題のある児童がいる。</p>	<p>近年、図書室の移転や新型コロナウイルス感染症の対応の関係で、図書貸し出しの機会が減少したことが要因である。短い文章を視写したり音読したりする機会を設けて、児童が言葉に触れる絶対量を増やすなどの工夫が必要である。</p>
算数	<p>数学的活動やタブレット端末の活用を通して、基礎的な知識・技能が習得できている。こうした資質・能力を生かして課題を解決するための活用能力を高めることが課題である。特にグラフを使って自分の考えの根拠となる情報を読み取ったり説明したりする力に課題がある。</p> <p>「令和4年度学習力サポートテスト」において、区内平均正答率と比べた数値が、昨年度より第5学年で0.4ポイント、第6学年で3.2ポイント上がった。しかし、依然として区内平均正答率を第5学年で0.2ポイント、第6学年で0.4ポイント下回っている。データの活用に関してはよく理解しているが、計算問題や図形の問題で誤りが見られた。</p>	<p>生活経験につながる数学的活動が不足している。児童が身に付けた知識・技能をどう関連付けて活用すれば問題を解くことにつながるかという見通しをもちにくい児童が多い。</p>
社会	<p>地域社会のために働く人々、生産者として働く人々の仕事の工夫や努力について理解している。社会的事象についての具体的な資料を読み取ることができるが、課題に対して調べたこと、分かったことを生かしながら考えを整理し表現することに課題がある。自分が調べたいことと活用する資料の内容が合致しているか判断できる力を育てる。</p> <p>「令和4年度学習力サポートテスト」において、区内平均正答率と比べた数値が、昨年度より第5学年で1.9ポイント、第6学年で2.4ポイント上がった。しかし、依然として区内平均正答率を第6学年で0.3ポイント下回っている。観点別にみると、思考・判断・表現の値が低い。</p>	<p>自分の課題解決に必要な情報を選択するための知識・技能が不十分な児童があり、個人差も大きいことが要因である。目的に応じて得た資料を比較・分類・関連付けながら結果や原因について考える学習場面も不足している。</p>

理科	<p>個人差があるが、実験・観察などで自分が立てた予想と関連付けながらノートに結果を整理し考察する力が育ってきている。また、身の周りや生活体験と比較したりしながら考察を書く力も少しずつ伸びている。実験・観察に使用する器具の正しい扱い方やそうした器具を活用することで何があきらかになるのかなど、基本的な活用方法に対する理解が不十分な点が課題である。</p> <p>「令和4年度学習力サポートテスト」において、区内平均正答率と比べた数値が、昨年度より第5学年で0.5ポイント、第6学年で2.2ポイント上がった。しかし、依然として区内平均正答率を第4学年で1.7ポイント、第6学年で2.1ポイント下回っている。生命・地球領域の知識・技能の値が低い。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策のために、実験・観察を要する学習に支障が出たことが要因の一つである。結果を比較・分類したり違いについて推測したりする場面での意見交流が活発に行えなかったことも要因である。</p>
英語	<p>歌やチャンツを通して英語に慣れ親しんだり、興味・関心をもって外国の文化や習慣を理解したりしている。対話の具体的な情報を聞き取り、その内容を理解する力が高まった。学習したことを生かし、自己表現する力や積極的に課題を解決していくなど、主体的に学習に取り組む態度を育てることが課題である。</p> <p>「令和4年度学習力サポートテスト」において、区内平均正答率を第6学年で2.1ポイント下回っている。読むことや書くことの領域の値が低い。</p>	<p>発話や発生を行う活動やペア・グループでのアクティビティが制限され、十分な言語活動を行うことができなかった。より身近な場面設定をして言語活動を行い、学習したことをアウトプットする機会を増やしていく。</p>
体育	<p>体育への興味・関心が高く、体を動かすことが好きである。しかし、全体的に児童の体力や運動能力は低下の傾向にある。筋力や巧緻性・柔軟性、また固定器具等を使った運動遊びの能力についても個人差が大きい。体力調査については、走る動きは区の標準値に近く安定しているが、他の項目については特に握力・投能力・跳能力に課題が見られる。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、体育学習や様々な運動の機会に制限があったことが体力低下の要因である。体育の授業でしか体を動かすことのない児童が増加していること、急激な児童数増加に伴い、外遊びの量や質に制限が生じていることも要因である。</p>

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和4年度学習力サポートテスト」において教科全体で区平均正答率を上回るようにする。 ・日常生活に必要な国語の知識や技能を育成する。 ・筋道を立てて考える力や感じたこと、想像したことを豊かに伝え合う力を育てる。 ・国語の大切さを自覚し、自分の思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和4年度学習力サポートテスト」において教科全体で区平均正答率を上回るようにする。 ・日常の事象を数理的に処理するための知識・技能を育成する。 ・課題に対して筋道を立てて考察する力を育てる。 ・算数科で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和4年度学習力サポートテスト」において教科全体で区平均正答率を上回るようにする。 ・社会的事象において主体的に課題を追究する力を育てる。 ・課題解決に必要な情報を選択・活用する力を育てる。 ・社会的事象を自分の生活と関連付けて考える力を育てる。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和4年度学習力サポートテスト」において教科全体で区平均正答率を上回るようにする。

		<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事象、現象についての理解を深め、観察・実験などの基本的な技能を高めるとともに、問題解決能力を育てる。 ・自然を愛する心情や主体的に問題を解決しようとする態度を養う。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和4年度学習力サポートテスト」において教科全体で区平均正答率を上回るようにする。 ・英語を進んで話したり聞いたりしようとするコミュニケーション能力を育成する。 ・学習したことを生かして、主体的に自己表現しようとする態度を養う。
	体育	<ul style="list-style-type: none"> ・特性に応じた運動の仕方や健康・安全について理解し、基本的な動きや技能を身に付ける。 ・運動や健康について課題を見付け、解決に向けて思考し、判断したり考えを伝え合ったりする力を育てる。 ・運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。 ・体力調査において、握力・投能力・跳能力の数値が昨年度を上回るようにする。
② 授業改善		<ul style="list-style-type: none"> ・児童の思考力・判断力・表現力をバランスよく育成する。 ・児童の「学校評価アンケート」で「学習が分かる」と回答する児童9割以上を目指す。 ・保護者の「学校評価アンケート」で「分かりやすく工夫された授業をしている」ことに概ね満足と回答する保護者9割以上を目指す。
③ 家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・地域や家庭との連携を深め、児童の学力向上に向けた教育活動への理解と協力のもと、より高い学習成果を目指す。 ・「学校評価アンケート」で「家庭学習をほぼ毎日する」と回答する児童、保護者9割以上を目指す。 ・保護者の「学校評価アンケート」で「児童の学力を観点別評価で適切に行っている」と回答する保護者9割以上を目指す。
④ 体力向上		<ul style="list-style-type: none"> ・体力調査で児童が個々の記録を上回ることができるようにする。特に、握力・投能力・跳能力の向上を目指す。 ・保護者の「学校評価アンケート」で「児童の健康・体力の増進に努めている」ことに概ね満足と回答する保護者8割以上を目指す。 ・「令和4年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」において、全学年握力の数値が全国比のTスコア値が下回っている。



【目標達成のための具体的な取組内容】

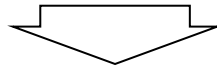
① 各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストやドリルパーク、辞書の活用、視写や読書活動、音読を通して、かな文字や漢字・ローマ字の確実な習得・定着を図るとともに、語彙力や文法力、読解力、文章力を高める。 ・話したり聞いたりするときのポイントやルールを分かりやすく提示する。 ・学習のねらいや発達段階に応じて、ペアや小集団活動などの話し合い活動を効果的に取り入れる。 ・学年に応じて、叙述から中心となる語や文を捉える、段落ごとの要点をおさえる、話の内容や文章全体の構成を考えながら目的や意図を理解するなどの指導を積み重ねる。 ・「取材→構成→記述→推敲→交流」の学習過程で、児童の学習状況に応じた具体的な指導を行い、自分の考えを分かりやすく書き表す力を育てる。 ・明確で必要感のある学習課題や学習計画を設定する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上で習熟度別少人数指導を導入し、個に応じた指導を継続的に行う。 ・タブレット端末を積極的に活用し、基礎的な知識・技能の確実な定着を目指す。 ・低学年では、具体物やブロックを用いた活動を通して、具体的操作と言葉を結び付け、体験的に理解できるようにする。 ・高学年では、グラフから読み取れることやそこから考えられることを話し合ったり、自分の考えの根拠を明らかにしながら説明したりする学習を取り入れる。 ・児童が日常生活との関連から課題を見付けられるような問題提示の仕方を工夫する。 ・学習の過程でペアや小集団活動を適切に取り入れ、様々な考えに触れられるようにする。 ・児童が考えた経緯を自ら振り返ることができるようなノートの書き方を工夫する。 ・単元を通して基礎的、基本的な練習問題などの既習事項を授業の初めや終わりに短時間で確認する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味関心を引き出す導入の仕方を工夫する。 ・主体的に課題を追究することができるような学習活動を設定し、問題解決の過程を重視する。 ・地図やグラフなどの資料の見方を指導する。タブレット端末などを活用して資料を収集し、自分が調べたい内容と資料との関連性について話し合ったり考えをまとめたりする活動を積み重ねる。 ・地域の教育力を活用して、児童自身が課題解決に必要な見学や調査等の機会を設定する。 ・学習の課題は何か、そこから自分自身の予想を立てさせ、調べ学習をする目的を明確にして、学習を進める。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を重視した授業を展開し、科学的な思考の仕方を指導する。 ・観察・実験記録の書き方や考察のまとめ方などを具体的に指導する。 ・校外学習や移動教室、ビオトープでの自然観察の機会をもち、植物の育ち方に対する理解を体験的に深める。 ・様々な条件や場合に応じた実験・観察を繰り返し、体験を積み重ねることによって、調べたり確かめたりすることの有効性を理解できるようにする。 ・デジタル教材等を活用し、実感を伴った理解ができるようにする。 ・学んだことを実生活に結び付けて考えさせるようにする。 ・実験用具は、一人に一つ、あるいは少人数で一つなど、実際に体験する活動を毎時間設ける。自然条件などの関係で、教室内観察が難しい場合は、ICT教材を活用し学習をさせる。

英語	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や英語専科教諭とALTが連携し、興味・関心をもって取り組む学習活動の工夫をする。 ・音声および映像教材、タブレット端末等にインストールされているデジタル教科書を積極的に活用する。 ・児童相互の関わりを大切に学習活動を取り入れる。高学年では、ペアでの small talk を継続して行うなど、学習したことをアウトプットする活動を取り入れる。 ・自分たちの身の回りにある異文化に、より興味をもたせるようにする。 ・友達同士のコミュニケーションを授業の主体にしつつ、そこに至るまで文章を考えたり、書いたりする準備の時間を多く設ける。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合いの場を重視し、効果的に小集団活動を取り入れる。学習カードを活用し、自分の学習の成果や課題に気付かせたり、次のめあてをもたせたりする。 ・児童の活動の様子や学習カードの記述から学習状況を見取り、適切な助言をする。 ・体育朝会でマイスクールスポーツに取り組んだり、柔軟性を高める運動を紹介したりする。 ・授業の中で基礎的な体力（握力・投能力・跳能力等）を高めるための活動を意図的・継続的に取り入れる。

②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的、対話的で深い学びにつながる学習内容を吟味し、児童にとって必然性のある小集団活動を適切に導入した授業を展開する。 ・児童自身が思考の変化や広がり・深まりに気付けるよう、授業の終末に学習内容を振り返る活動を行う。 ・教科の特性や単元の内容に応じた言語活動の充実を図る。 ・少人数指導講師や理科・ICT支援員・体育学習指導員を交えて授業づくりをする。 ・思考ツールなど、全学年を通して使用できる教材を共有する。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や各教科と指導内容の関連性、教科等の横断的な指導など、教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実を図り、授業を通して効果的な指導に役立てる。 ・研究授業や指導教諭・メンタティーチャーによる模範授業の参観、全教員による授業実践報告会など、様々な研究・研修の機会にこれまで取り組んだ授業改善の成果や課題を意見交換し、個々の授業力の向上に役立てる。 ・ICT委員会を中心に授業における効果的な活用方法を検討し、タブレット端末を活用した児童の主体的な学習や個別学習を支援する。 ・理科の指導力向上のために、授業で取り組む実験・観察等の実技研修会を実施する。 ・ICT機器を活用した子ども同士の学びあいのさせ方について、教員の研修会を行う。

③家庭との連携	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用して、家庭から授業に参加したり、自主学習に取り組んだりすることができるようにする。 ・基礎学力を高めたり、家庭での学びの習慣を身に付けさせたりするために、積極的にドリルソフト（ドリルパーク）を活用する。 ・家庭学習で学習の振り返りなど、タブレット端末を活用して取り組ませる。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談や「久松すくすくプラン」を活用しながら、学校と家庭が児童に身に付けさせたい力や伸ばしていきたい力を明らかにし、個別指導に役立てる。 ・家庭の協力のもと、児童の学習状況に応じた放課後の個別指導や夏季休業中の補習授業を実施する。

④体力向上	
取組Ⅰ	・児童が運動の技能を高め、運動を通じてできる喜びを実感させるために、水泳サポート教室やマット・跳び箱サポート教室を実施する。また、運動技能が高まった児童を称賛し、学年や学級で紹介する。(運動委員会の縄跳び活動の奨励と支援)
取組Ⅱ	・児童の体力の向上を図るために、体育学習の指導方法やマイスクールスポーツ(水泳・縄跳び)の取り組み方を改善し、児童が意欲的・継続的に運動できる方法と環境を整える。 ・休み時間の鉄棒を使った遊びの例などを作成し、運動の日常化を促進する。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・書く単元の言語活動により、学年相応の語彙力を身に付けることができている。 ・相手に物事を伝えたり、調べた内容を発表したりする方法について理解できた。 ・説明的文章や文学的文章については、文章から大事な語を抜き出したり、要点を捉えたりする力が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の利用を定期的に行い、図書の本多読につながる指導を行っていく。 ・感染症対策により、友達に話す活動を行わない時期を経ている児童が多いため、対話的な学習の機会を継続してもつ。 ・読み取った内容から自らの考えをもたせる指導を充実させる。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフから読み取れることやそこから考えられることを話し合ったり、自分の考えの根拠を明らかにしながら説明したりする学習を取り入れることで、課題に対しての考えを多角的に捉えられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を使って自身の考えを表現する場面で課題がある。どのようにしてその解決方法を考えたのか、具体物を用いたり、友達に説明したりする場面を意図的に設けることで、自身の考えを明確にするよう指導する。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に課題を追究することができるような学習活動を設定することで、学習資料やICT機器を有効的に活用し、自身の考えを表現する力が身に付いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の解決に向けて取り組んだ内容について、クラスでの共有方法に課題があった。どのような方法で共有すると、児童の学習がより深まるのか、教員間でも様々な方法を模索していく。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験記録の書き方や考察のまとめ方などを具体的に指導し、予想と比べながら考察をする児童が増えた。 ・自然条件などの関係で、教室内観察が難しい場合は、ICT教材を活用し、実感を伴った理解ができる児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを実生活に結び付けて考えられるようにするために、生活体験を振り返って予想を立てたり、結果から分かったことと関連付けたりするように指導する。 ・実験を通して得た結果から新たな課題を発見する力を高められるようにするため、実験・観察を繰り返すことで、調べたり確かめたりすることの有効性を理解できるようにする。

	英語	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味関心や実態に合わせて、Activityを工夫し、言語活動を増やしていくことで積極的に表現しようとする児童が増えた。 ・単元の内容に関係のある映像教材を見せたり、ALTから母国の様子を話してもらったりすることで様々な国の文化に対する興味関心が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年は読み・書きの時間がなかなか取れなかった。「書くこと」の練習のための時間を工夫して確保できるようにしたい。 ・単元のターゲットセンテンスだけでなく、既習事項をもとに、さらに表現の工夫ができるように教室内の掲示等工夫をして、いつでも活用湯できるようにしたい。
	体育	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを活用し、自分の学習の成果や課題に気付かせたり、次のめあてをもたせたりすることで、児童が自らの学習課題を明確に捉え、その解決に向けて運動に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・領域によって、児童の技能差が顕著になる。特に器械運動の領域では、日常的な経験の少なさや、コロナ禍での運動不足の傾向が強く表れていた。学校として、体育の授業中に帯で取り組む運動例などを考えて授業に取り入れていく。
② 授業改善		<ul style="list-style-type: none"> ・小集団活動を通じて自他の違いを互いに共感的に受け入れるなど、他者意識や自分を認めようとする態度が育った。また、ICT機器を効果的に使うことで、児童の意見交流が活発になった。 ・児童アンケートで「学習がよく分かる・分かる」と回答した児童が97%いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団活動や、ICT機器については、積極的活用を心がけて取り組んだ。今後は、より効果的な活用場がないか、またはより有効な学習方法がないか精査していく必要がある。 ・教科担任制を積極的に活用し、学年全体の児童理解を進めるとともに、自身の指導力向上に努める。
③ 家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を様々な場面で活用できた。欠席した児童はオンラインによる指導など、学びの継続性を保障したり個別指導に役立てたりした。「分かりやすく工夫した授業をしている」と回答した保護者が87%いた。また、オンライン配信による授業を公開し、児童の学習の様子を伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携を深めるために、オンラインシステム上の課題を早期に解決していくことが重要である。今後もICT機器を有効に活用し、家庭学習の充実を図るとともに必要に応じてオンラインによる個別指導や個別の授業を実施していく。
⑤ 体力向上		<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の活用や、アスリートによる講演会で、体力向上に関する気運の醸成を図った。 ・運動委員会で体力向上週間を児童自ら運営し、多くの児童が運動に親しんだ。 ・体育の授業で学んだことを、休み時間の遊びにも取り入れている場面が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に運動している児童は74%いた。学校での取り組みが、休み時間だけでなく、放課後や休日の運動習慣にもつながるよう、保護者も交えた取り組みをしていく必要がある。